

新見市立千屋小学校

・児童数 22名 ・学級数 3学級 ・教職員数 7名（平成27年2月20日現在）

○取組実践のキーワード

主体的な学習態度の育成

○標題（研究主題）

『自ら学び、ともに輝く子をめざして ～算数科と「ふるさと学習」を通して～』

○取組を始めた経緯

本校は、へき地にある極小規模校であり、完全複式学級で学習をしている。

平成25・26年度岡山県へき地・複式教育研究連盟と新見市教育委員会の研究指定を受け研究実践に取り組んでいる。

○取組の実施体制

学力を向上させるには、知徳体のバランスの取れた取組が重要であると考え、研究推進委員会の下に、次の3部会を設けて研究を推進した。

1 算数科部会

主体的な学習態度の育成について研究をする。特に複式授業のわたりの学習について研究する。魅力ある授業づくり元スタッフの指導による研究授業実践。

2 ふるさと学習部会

生活科、総合的な学習の時間で地域の学習素材から学ぶ学習を研究する。地域の人々との関わりや直接体験活動によって、課題解決能力と豊かな心の育成を図る。

3 生活習慣づくり部会

学力向上の基盤となる、健康な心身の育成のための生活習慣づくりについて研究する。

○学力向上に向けた具体的な取組（算数科部会の取組）

1 学力・学習状況調査分析による児童の学力の実態把握

全国及び岡山県学力・学習状況調査結果について児童一人一人の誤答を分析し、児童のつまづきをなくするためにはどのような力を特に育てていかなければならないのかを全職員で話し合い、そのための改善方法について共通理解した。

2 授業改善の取組

① 学習の進め方（岡山型学習指導のスタンダードとほぼ同じ）を明確にし、児童が見通しを持って主体的に学習に取り組む態度を育成した。（複式授業だけでなく単式授業においても実践し、積極的な学習態度の育成を図った。）

算数科わたりの学習では、学習の進め方カードを参考にして当番が次の学習活動を指示することもできるようにした。

② 既習の学習内容を使って、児童自らが本時の学習課題をつかむように工夫した。

- ③ 多様な児童の考えを、発表ボードに書かせて黒板に貼りみんなで練り合い考えを深める学習を多くした。この学習方法は、教師が説明するより児童が主体的になり学力向上につながった。また、話し合いの進め方の話型を「話し合い名人」として教室に掲示して活用した。
- ④ 全体で話し合う前に、2人で話し合うペアトークも必要に応じて取り入れることで表現力の育成を図ったり自信を持たせたりした。
- ⑤ デジタル教材、スマートボード、実物投影機等のICT機器を活用し、分かる授業に努めた。
- ⑥ ノートの使い方について共通理解をして指導した。
- ⑦ 無駄な時間を省いて、メリハリを付けた効率的な授業を進めるよう心がけ、できるだけ多くの練習問題に取り組むようにした。
- ⑧ 児童にとって分かり易い板書の仕方について、職員で共通理解した。

○現在までの取組の成果と課題

成果として、1単位時間の授業の流れを全学年共通のものにし、板書の工夫や学習の仕方を明確にしたことにより、以前よりも児童が主体的・積極的に学習に取り組むようになった。

また、発表ボードや実物投影機の活用により、相手に分かり易く伝えるための表現力が育つとともに、算数用語を正しく使って発表する力も付いてきた。

課題としては、問題文を素早く読み取り、既習事項を活用した課題解決の仕方を定着させ、一人一人の力を更に伸ばしていきたい。

○取組の継続・発展の要因

自ら課題意識を持ち、児童が主体となってお互いの考えを発表し合う中で更に思考を深めていく学習は、子どもたちにとって楽しい学習である。疑問や分からないことを出し合えば出し合うほど学習は深まり、みんなで力を合わせて課題を解決し分かり合えたときの喜びは大きく次への学習意欲となる。学習に集中して意欲的に取り組み続けることは、学力を向上させる重要なポイントと考え、今後もこの研究実践を継続し発展させていきたい。

○管理職・中核教員等のアクション

授業改善を進めるために、魅力ある授業づくり元スタッフを指導・助言者として何度も招聘し、教材研究から指導案作り、師範授業・研究授業・研究協議などを充実させた。

また、日常の授業観察を頻繁に行い、改善された点を評価して教職員の意欲向上に努めた。

○その他の資料・写真等



2年生児童発表の様子と板書



3年生学習の様子と板書